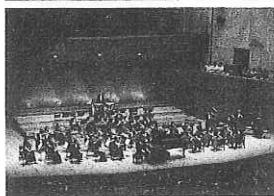


◆東京ユニバーサル・フィルハーモニー  
管弦楽団 第27回定期演奏会

生誕200年記念ということで、  
オール・シューマン・プロ。4つの  
ホルンのための小協奏曲、ピアノ協  
奏曲、交響曲第3番「ライン」とい  
うラインナップ。指揮は三石精一、



東京ユニバーサルフィルハーモニー  
管弦楽団  
(©(有)スタジオ・スペース・フォト)

ピアノ・ソロは佐藤彦大、ホルンは  
同オケのメンバー。まず大きな称賛  
を贈りたいのは佐藤彦大。当初予定  
されていたソリストの急病のため、  
ほとんど準備期間のないまま出演し  
たそうだが、そんなことを微塵も感  
じさせぬ演奏ぶり。みずみずしい率

直さと音楽の勢い、万全な技巧、そ  
れらが一体となって、実に若やいだ  
清涼感溢れる演奏となった。またオ  
ケの献身的な演奏ぶり、そして三石  
の「これぞ協奏曲の指揮の手本」と  
もいふべきフレキシブルな手腕も見  
事だった。交響曲はとにかく快速。

ロマンティックな思い入れのあまり、  
とかく散漫になりやすい作品を、三  
石はそうしたテンポ設定によって過  
度の情緒を取り去ると共に、明快な  
構造とクリアな響きを創り上げてい  
た。誠に熟練のワザである。(5月22  
日、東京芸術劇場) (石原立教)